

地域包括ケア団地モデルについて

1 経緯

昭和 40 年代頃から整備が始まった大規模団地では、団地が老朽化する中、ひとり暮らしの高齢者や高齢の夫婦のみの世帯も多く、孤立化などの問題も顕著となっていることから、現在実施しているモデル事業とは異なったアプローチが必要であるため、団地モデルを実施している。

2 団地モデルの対象地域

高蔵寺ニュータウン 石尾台及び高森台地区（人口 14,040 人（平成 27 年 4 月現在））

<主な選定理由>

- 1 高蔵寺ニュータウンは、県内において規模は最大で、古い団地の一つであること。
- 2 ニュータウン高森台地区には未利用の県有地があり、民間活力の活用が期待できること。
- 3 石尾台地区はニュータウンで最も高齢化率が高い(42.2%)地区であること。

3 事業内容及び検討状況

- (1) 今年度、団地における地域包括ケアの姿やそれを実現するための取組・工程など、団地モデルの構想を取りまとめ、来年度以降、具体的な取組を進める。
- (2) 構想の内容については、地域の医療・福祉等関係者、学識経験者、地元自治会等で構成する地域包括ケア団地モデル検討会議で、現在検討中。

回数	開催年月日	検討の内容
第1回	H27. 7. 3	石尾台・高森台の現状、団地モデルの考え方と課題
第2回	H27. 10. 28	課題に対する取組の方向性
第3回	H28. 1. 29	具体的な取組及び工程
第4回	H28. 3. 29(予定)	団地モデル構想のとりまとめ

- (3) 検討会議で出された対象地域の主な問題点

- ・ 医療機関が少ない。
- ・ 生活必需品が購入できる買い物場所がない。
- ・ エレベータが設置されていない賃貸住宅が多い。
- ・ 気軽に相談できる場所がない。
- ・ 交通の便が悪い。
- ・ 住民が交流したり、集まったりする場所や機会がない。

4 具体的な取組及び工程

団地モデルの考え方	取組の内容
<p>○地域包括ケア拠点の整備</p> <p>○高齢者が安心して暮らせる住まいの確保</p> <p>○買い物場所の確保など新たなまちづくり</p> <p>○元気な高齢者の活力を活かした多世代交流の推進</p>	<p>1 県有地を活用して、在宅療養支援診療所、訪問看護事業所、相談室、交流場所等を併設したサービス付き高齢者向け住宅を誘致する。</p> <p>2 県有地を活用して、日用品等の買い物や飲食等ができる商業施設を誘致する。</p> <p>3 地域の人たちが気軽に立ち寄り、利用できる居場所を設置するとともに、元気な高齢者の活力を活かした多世代交流の取組を企画・実施する。</p> <p>4 団地の空き室等を活用した相談室を設置して高齢者等からの相談に応じるほか、地域住民等を活用した訪問による見守り活動を行う。</p> <p>5 地形（高森山）や人材（健康づくりリーダー等）を活用し、健康づくり・介護予防事業の充実を図る。</p>

<工程>

取組(実施主体)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1 サービス付き高齢者向け住宅等の誘致（県）	事業者公募	（整備工事）	開所（目標）
2 商業施設の誘致（県）	事業者公募	（整備工事）	開業（目標）
3 多世代交流の取組や居場所づくり（市）	取組内容 実施場所 等の検討 →	実施	→
4 相談や見守り等の生活支援の充実（市）	取組内容 実施場所 等の検討 →	実施	→
5 健康づくり・介護予防の充実（市）	取組内容 実施場所 等の検討 →	実施	→